

特任教員

ドイツ語圏言語文化コース フランス語圏言語文化コース 表現文化コース

ジモン・エルトレ 特任准教授 **ジュリアン・ムナン** 特任講師 **江村 公** 特任准教授

Simon OERTLE Julien MENANT Kimi EMURA

高島 葉子 教授

民間伝承・民間説話の比較文化的研究。
『奥布すき女神の源流—最果ての妖婆たち—』
(三弥井書店、2021年)

Yoko Takashima

イアン・リチャーズ 准教授

New Zealand Literature
共著『Vision Beyond Visual Perception (Cambridge Scholars Publishing, 2017)』

Ian Richards

増田 聡 教授

ポピュラー音楽研究、都市大衆文化研究、文化所有論（著作権、作者論など）
『聴衆をつくる—音楽批評の解体文化』(青土社、2006)

Satoshi Masuda

古賀 哲男 准教授

アメリカ文学（黒人詩研究）
『ラングストン・ヒュース』(大阪教育図書、2017)

Tetsuo Koga

海老根 剛准 教授

表象文化論
『(大衆をほくす) —シアトロクラシーと映画(館)』
(I+a 美学研究) 第12号所収、大阪大学美術研究室、2018)

Takeshi Ebine

内丸 公平 准教授

シェイクスピアのグローバルな翻案・教育にかかわる分野
共著『Shakespeare in East Asian Education (Palgrave, 2021)』

Keiichi Uchimaru

文化構想学科
アジア文化コース

言語文化学科
ドイツ語圏言語文化コース

松浦 恆雄 教授

19世紀末以降の中国演劇、および近現代文学。
共編『中華文藝の藝文』(『野草』第百号) 研文出版、2018年。

Tsuneco Matsura

高井 絹子 教授

19世紀末以降のドイツ語圏文学・文化
『インゲルホルツ・パッサマンの文学』鳥影社、2018年

Kinuko TAKAI

多和田 裕司 教授

文化人類学、東南アジア地域研究、現代社会と文化
共編著『イスラム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』(上智大学アジア文化研究所、2013)

Hiroshi Tawada

長谷川 健一 准教授

18・19世紀のドイツ語圏文化・文学
共著『ドナウ河 一流域の文学と文化—』(晃洋書房、2011)

Kenichi Hasegawa

堀 まどか 教授

国際日本研究。比較文化。境界者の人生や作品から社会と歴史をさぐる。
主著『「二重国籍」詩人 野口米次郎』(名古屋大学出版会、2012)

Madoka Hori

信國 萌 講師

現代ドイツ語学、言語学
『事象を頂に取るドイツ語形容詞と事象を表す語句の統語論的実現と意味的特性—事象のアスペクトの解釈の対立を手掛かりに—』(東京外国語大学大学院博士論文、2019)

Moe Nobukuni

宋 恵媛 准教授

在日朝鮮人文学、コリアン・ディアスポラ文化、ジェンダーについて研究しています。
『在日朝鮮人文学史』のために「声なき声のポリフォニー」(岩波書店、2014/ノンフィクション、2019)

Hyewon Song

言語文化学科
フランス語圏言語文化コース

文化構想学科
文化資源コース

福島 祥行 教授

相互行為・コミュニケーション論、社会応用言語学、言語学習、社会的レジリエンス創発、弱いロボット「すれちがいの意味論—雑新派のことばと相互行為—」永田靖編『漂流の演劇—雑新派のパスパティオ』所収 (大阪大学出版会、2020)、[キクタン フランス語会話【入門編】] (アルク、2016)

SHIMA Yoshiyuki

小田中 章浩 教授

演劇史、比較演劇、表象文化論
Japanese Political Theatre in the 18th Century (Routledge、2020)

Akihiro Odanaka

白田 由樹 教授

19世紀末フランス・ベルギーの文化、ジェンダー・エスニシティの表象、アール・ヌーヴオー等の研究。
『サラ・ベルナール—メディアと虚構のミュージー—』(大阪公立大学共同出版会、2009)

Yuki Shirata

菅原 真弓 教授

日本美術史（日本近世近代絵画史）、文化資源学、博物館学。
『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』(中央公論美術出版、2018、第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞)

Mayumi Sugawara

原野 葉子 准教授

20世紀フランス文学・文化。戦争、実験文学、空想科学。
編訳『ボリス・ヴィアン著「夢かもしれない娯楽の技術」』(水声社、2014)

Yoko Harano

天野 景太 准教授

観光学（都市観光論、観光形態論、観光メディア論）、都市社会学論
共著『都市・地域観光の新たな展開』(古今書院、2020)

Amano Keita

文化構想学科
表現文化コース

沼田 里衣 准教授

臨床音楽学、即興音楽、アートマネジメントなど。
『「動いている音楽」—社会的課題と結びついた即興音楽の美的戦略に関する一考察—』(『日本音楽即興学会誌』第5巻、2020)

Rii Numata

野末 紀之 教授

19世紀末イギリスの文学および文化思想。
『文体のポリティクス—ウォルター・ペイターの闘争とその戦略』(論創社、2018)

Noriyuki Nozue

多くの本学生が利用する JR 阪和線「杉本町駅」の東側の線路沿いには、さくら通りと呼ばれる通りがあります。名前の通り、毎年春になると多くの桜が咲き誇ります。

教 員

言語文化学科
国語国文学コース

丹羽 哲也 教授

日本語の意味と文法。普段使っている言葉がどのような仕組みでできており、それが過去から現代までいかに変化してきたかという研究。
『日本語の羅目文』(和泉書院、2006)

Tetsuya Niwa

小林 直樹 教授

中世の説話伝承文学。とりわけ現在は、通世僧の文学世界を中心に研究を進めている。
『中世説話集とその基盤』(和泉書院、2004)

Naoki Kobayashi

久堀 裕朗 教授

近世文学・演劇、主に人形浄瑠璃（文楽）史の研究。
共編著『上方文化講座 義経千本桜』(和泉書院、2013)

Hiroaki Kubori

奥野 久美子 准教授

芥川龍之介など大正時代の小説。特に大衆演芸からの影響について。
『芥川作品の方法』(和泉書院、2009)

Kumiko Okuno

山本 真由子 准教授

中古文学、おもに漢文学・和歌の研究。
『平安朝の序と詩歌—要集文学攷—』(塙書房、2021年)

Mayumi Yamamoto

言語文化学科
中国語中国文学コース

張 新民 教授

現代中国文化論及び映画研究
共著『中国映画のみかた』(大修館、2010)

Shin min Cho

大岩本 幸次 教授

中国語音韻史、中国古代字書史
『金代字書の研究』(東北大学出版会、2007)

Koji Oiwamoto

高橋 未来 准教授

中国古典文学
著書『社牧研究—社牧における政治と文学—』(東京学芸大学出版会、2016)
論文『社牧(山行) 詩の「坐」について』(『次城女子短期大学紀要』第46集、2019)

Miki Takahashi

言語文化学科
英米言語文化コース

田中 孝信 教授

19世紀イギリス小説と階級、ジェンダー、人種
共編著『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』(彩流社、2016)

Takanobu Tanaka

豊田 純一 教授

認知科学、歴史言語学、文化人類学
共編著『Vision Beyond Visual Perception (Cambridge Scholars Publishing、2017)』

Junichi Toyota

紹 介

川邊 光一 教授

生理心理学：高次認知機能（特に学習・記憶）の脳内機構、精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究
『Effects of early postnatal MK-801 treatment on behavioral properties in rats: Differences according to treatment schedule』, Behavioral Brain Research, Vol.370(2019)

Kouichi Kawabe

佐伯 大輔 准教授

行動分析学、学習心理学：選択行動、価値割引
『価値割引の心理学—動物行動から経済現象まで』(昭和堂、2011年)

SAEKI Daisuke

橋本 博文 准教授

社会心理学：集団力学、集団内利他行動、心の文化差
『Two faces of interdependence: Harmony seeking and rejection avoidance』, (Asian Journal of Social Psychology, 16, 142-151, 2013, Wiley-Blackwell Publishing Ltd., 共著)

Tomomi Hashimoto

人間行動学科
教育学コース

添田 晴雄 教授

比較教育文化史、教育・学習における、話すことと聞くことの研究。特別活動、いじめ問題の国際比較
『文字と音声の比較教育文化史研究』(東信堂、2019)

Haruo Soeda

島田 希 准教授

教育方法学、カリキュラム研究
『学校を基盤としたカリキュラム開発における校長の役割のモデル化—カリキュラム・リーダーシップ論を分析の視点として—』(カリキュラム研究) 30, pp.43-55, 2021.

Nozomi SHIMADA

辻野 けんま 准教授

教育経営学、教育行政、学校経営、ドイツの教育
共著『現代の学校を読み解く—学校の現在と教育の未来—』(春風社、2016)

Kenma Tsujino

人間行動学科
地理学コース

山崎 孝史 教授

グローバルな政治経済的変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖縄研究。
『政治・空間・場所—「政治の地理学」に向けて「改訂版」』(ナカニシヤ出版、2013)
共編著『現代地政学事典』(丸善出版、2020年)

Takashi Yamazaki

祖田 亮次 教授

東南アジア研究、災害文化論、流域社会論
People on the move (Trans Pacific Press, 2007)
Anthropogenic tropical forest (Springer, 2020, 共編著)

Ryoji Soda

木村 義成 准教授

地理情報システム、保健医療分野におけるGISの応用研究
『大阪市における消化出血患者の搬送特性からみた地域グループ』木村義成 史林 103(1), pp.215-241, 2020.

Yoshinari Kimura

菅野 拓 准教授

『つながりが生み出すイノベーション—サードセクターと創発する地域—』(ナカニシヤ出版、2020年、単著)、『災害対応ガバナンス—被災者支援の混乱を止める—』(ナカニシヤ出版、2021年、単著)

Sugano Taku

水内 俊雄 教授(兼任)

近代都市の社会問題、住宅問題の歴史的研究や日本・東アジア、欧米の脱ホームレス支援や都市再生に関わる社会地理学的研究。
『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相』(都市研究プラザ、2019) ※(本務)都市研究プラザ

Shunichi Mizuno

氏名 職階

研究内容
主な業績

English Name

濱本 真実 准教授

中央ユーラシア史、ロシア史
『聖なるロシア』のイスラム：17-18世紀タタールの正教改宗』(東京大学出版会、2009年)
『共生のイスラム：ロシアの正教徒とムスリム』(山川出版社、2011年)

Mami Hamamoto

上野 雅由樹 准教授

西アジア近世・近代史、オスマン帝国史
共著『世界史/いま、ここから』(山川出版社、2017)

Masayuki Ueno

北村 昌史 教授

近現代ヨーロッパ、とくにドイツの社会史
南直人・谷口健治・北村昌史・進藤修一編『はじめて学ぶドイツの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2020年

Masafumi Kitamura

草生 久嗣 教授

ビザンツ学・西洋中世学・キリスト教異端学・宗教社会学
共著『地中海都市の活力と変貌』慶応大学出版会 2021年

KUSABU, Hisatsugu

向井 伸哉 講師

西洋中世史、フランス史、村落史、国制史
『中世後期南フランスにおける都市と農村の政治的関係：ペジェの都市エリートとヴァンドレンスの村落共同体（一三五〇—一四〇〇）』、『史学雑誌』127巻10号、2018年、1-30頁。

Shinya Mukai

人間行動学科
社会学コース

石田 佐恵子 教授

メディア文化研究・映像社会学
編著『基礎ゼミ メディアスタディーズ』(世界思想社、2020)

Saeko Ishita

伊地知 紀子 教授

大小様々な困難に直面するなか日常生活で創りだされる場に関心があります。韓国・濟州島、日本、ベトナムで調査をしています。
『関わり合いからの人間学』松田素二とゆいな仲間たち編『雑草たちの奇妙な声—現場って何だ?!』(風響社、2021、357-374)

Noniko Ichihashi

川野 英二 教授

社会政策の社会学・比較社会学。
共訳『セルジュ・ボーガム著『貧困の基本形態—社会的紐帯の社会学』』

Eiji Kawano

笹島 秀晃 准教授

都市社会学。
『ニューヨーク市のSoHo地区における芸術家を契機としたジェントリフィケーション：1965・1971年における画廊の集積過程に着目して』『社会学論評』67(1)2016

Hideaki Sasajima

平山 亮 准教授

家族社会学・老年社会学・ジェンダー研究
『介護する息子たち：男性性の死角とケアのジェンダー分析』(勁草書房、2017)

Ryo Hirayama

人間行動学科
心理学コース

山 祐嗣 教授

認知心理学：推論、思考の潜在性・顕在性
『生きにくさ』はどこからくるのか—進化が生んだ二種類の精神システムとグローバル化—(新曜社、2019)
『Adapting human thinking and moral reasoning in contemporary society』(IGI Global、2019)

Hiroshi Yama

哲学歴史学科
哲学コース

仲原 孝 教授

宗教学。宗教哲学。カント、ニーチェ、ハイデガーを中心とする近現代ドイツ哲学の研究
『ハイデガーの根本洞見』(昭和堂、2008)

Takashi Nakahara

高梨 友宏 教授

ドイツ近現代美学、近代日本の芸術論。
『西洋近現代美学の一概観』加藤尚志・平尾正弘編著『哲学の眺望』(晃洋書房、2009)

Tomohiro Takanashi

土屋 貴志 准教授

倫理学（道徳哲学）。とくに、倫理学基礎論、医療倫理学、人権論、道徳教育論
論文『倫理学するに倫理想研究は（なぜ、どこまで）必要か』関西倫理学会『倫理学研究』48号(2018)

Takashi Tsuchiya

佐金 武准 教授

英語圏のいわゆる分析哲学の文脈において、現代時間論および関係する形而上学の諸問題を中心に研究。
『時間にとって十全なこの世界：現在主義の哲学とその可能性』(勁草書房、2015)

Takeshi Sakon

哲学歴史学科
日本史コース

仁木 宏 教授

日本中世史。都市史、地域社会史、権力論。現在はとりわけ、戦国時代から織田・豊臣時代の全国の都市や大名に興味を持って研究している。
『京都の都市共同体と権力』(思文閣出版、2010)

Hiroshi Niki

岸本 直文 教授

日本考古学。古墳時代の研究。現在は、古墳時代から飛鳥時代への社会変容について、古墳の築造規制の実態から追究している。
『倭王権と前方後円墳』(塙書房、2020)

Naofumi Kishimoto

佐賀 朝 教授

日本近現代史。特に近代大阪の都市社会学や戦時下の民衆生活史。近年は『遊廓社会学』の研究も手がけている。
『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社、2007)

SAGA Ashita

磐下 徹 准教授

日本古代史。郡司制度の研究、古記録の注釈、大阪の古代史に取り組んでいる。
『日本古代の郡司と天皇』(吉川弘文館、2016)

Toru Iwashita

齊藤 紘子 准教授

日本近世史。和泉地域の村落社会や領主支配、大阪の都市社会学について研究している。
『畿内諸代藩の陣屋と藩領社会』(清文堂出版、2018)

Hiroko Saito

哲学歴史学科
世界史コース

平田 茂樹 教授

中国の近世社会の政治史、社会学、文化史
『宋代政治構造研究』(汲古書院、2012)

Shigeki Hirata

渡辺 健哉 教授

中国近世・近代史。北京の歴史、元明時代の科挙をめぐる問題、近代における日本と中国との学術交流の歴史を研究。
『元大都形成史の研究—首都北京の原型』(東北大学出版会、2017)

Kenya Watanabe